

海部東地域農業再生協議会（愛知県津島市、あま市）

組織の概要

- 津島市、あま市（設立時は、海部郡美和町、海部郡七宝町及び海部郡甚目寺町）、海部郡大治町、JA海部東等が構成員となり、H16に設立。
- 農家数3,362名（R2年）（うち、水田麦・大豆産地生産性向上事業の受益農業者数は26名）
- 各構成員の連携のもと、生産性や作業効率向上を目指し、農地集約による団地化を推進。
- 稲・麦を主とした需要に応じた生産を行う担い手への農地集積が進展。
- 主食用米の需要が減少する中、小麦の作付面積を拡大し、水田面積を維持する方針。

生産概要

- 【作付面積】水稻：555ha、小麦：14ha（R2年）
- 小麦については、日本麺用品種「きぬあかり」を作付けしており、作付面積は年々拡大。
- 農地中間管理事業による農地の集積が進んでおり、今後は、集積した農地の団地化により生産性向上を目指す。



<1月中旬の麦ほ場の様子>

取組のポイント

<実需者の需要を踏まえた小麦生産の拡大>

- 現在「きぬあかり」を生産しているが、県内の学校給食においてパン・中華めん用品種「ゆめあかり」の使用を拡大する方針であり、今後、需要の増加が見込まれることから、令和4年産から「ゆめあかり」への品種転換を進め、作付面積を拡大する。
- 「ゆめあかり」への転換に当たっては、実需者の求める品質基準を満たすため、土壌診断に基づく「ゆめあかり」専用肥料の施用等により、蛋白質含有率12.5～14.0%を確保するとともに、単収の安定化を図る。



〔導入した自動操舵システム付トラクターを用いたサブソイラによる心土破碎〕

<ほ場の団地化や機械の導入による小麦の生産性の向上>

- 農地中間管理事業により集積した農地の団地化を進めるとともに、地域の中心的な生産者における自動操舵システム付トラクター等の導入を進め、作業の効率化を図る。
- 事業により導入した溝掘機やスタブルカルチといった機械装備の活用や、サブソイラによる心土破碎の実施により湿害対策を徹底し、単収・品質の向上を図る。

取組成果

<小麦生産の高位安定化の実現>

■ 作付面積の拡大

14.0ha（R2）⇒ 40.6ha（R4）（190%増）〔R6目標：52.0ha〕

■ 生産量の増加

92㍏（R2）⇒ 243㍏（R4）（164%増）〔R6目標：225㍏〕

